

介護施設の役割と生活について

令和3年11月20日
宝塚市花屋敷荘園 4-1-6
エクセレント花屋敷ガーデンヒルズ
支配人 円藤 健二

介護業界で働く中で感じた個人的な感想を記載させていただきます。介護保険制度が創設される以前、介護施設に入居すると家族と離れて病院のような遠方の施設で一生生活するイメージが世間では一般的でした。

現在の介護施設は以前と比較すると様々な変化が見られます。施設での生活も在宅生活の延長として捉え、ご自宅での生活を入居前に聞き取り、なるべく自宅での生活に近づけるような取組がなされています。

施設数、種類が大幅に増え、選択肢が多くなりました。そのことにより自宅により近い施設に入居できるようになりました。以前の老人ホームは都市部から離れた場所にあることが一般的でした。原則的に面会、外出、外泊が自由にでき、地域に開かれた施設になりました(コロナ禍では制限されることになりましたが。)

自宅の近くに施設があることと、施設の出入りがある程度自由なことにより、次のような利点があります。まず、施設へ入居することで家族の介護負担を軽減することができます。次に会いたい時に会うことができます。つかず離れずの適切な距離感を作ることができ、結果的に入居者と良好な関係をより長く続けていくことが可能となります。極端に言うとも毎日会うこともできるし、全く会わないこともできます。毎週末、外出又は外泊して家族と家で過ごすことも可能です。

その他の大きな変化として入退去がしやすくなったことがあります。入居時に高額な一時金を必要とする施設が減り、月額費用のみで生活可能な施設が増えました。気に入った施設へ入居しても、実際生活してみると施設の生活や雰囲気、人間関係が合わない、想像と違ったと思う場合もあります。そのような場合でも我慢して生活を続ける必要はなく、他の施設へ転居することも可能です。実際に他施設から移って来られる方や他施設へ移る方もおられます。

入居者や家族の状況によって、様々な特色を持った施設を選択できるようになりました。都市部、山間部、海辺、リゾート地、温泉付きなどの立地条件。認知症ケア、リハビリ、食事、レクリエーションなど、施設で受けることが可能な様々なサービスに特化した施設もあります。

多種多様化したことにより施設選びが難しくなった等のデメリットもある反面、昔と比べ施設入居の敷居は低くなったと感じています。家族の負担を軽減しつつ、入居者と家族の良好な関係を継続できるようにする役割も施設に求められると考えています。